

第 1 1 9 回 (令和元年 1 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 4 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は20分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

委託先名	商品名	売価	数量
小野商店	A	2,600	350
南総業	B	3,100	286
佐藤商事	C	1,800	312
花食品	D	2,400	278
さくら屋	E	3,700	261
マルヤマ	F	2,900	294
泉商会	G	1,700	347
スバル堂	H	3,400	301

<処理条件>

- <出力形式>のような委託販売一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 手数料=売価×数量×0.12
奨励金=180×(数量-200)
支払額=手数料+奨励金
- 合計・平均(整数未満四捨五入の表示)を求めなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式>

委 託 販 売 一 覧 表

委託先名	商品名	売価	数量	手数料	奨励金	支払額
合 計	——	——				
平 均	——	——				

第 1 1 9 回 (令和元年 1 2 月) 情報処理技能検定試験 (表計算) 3 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表を完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

コード	依頼先名	製品名	完成数	単価
101	市川工業	A	3,649	87
102	平下精工	B	4,352	68
103	桜井工業	C	3,768	83
104	西山産業	D	4,301	74
105	MK金属	E	4,217	75
106	原製作所	F	3,894	81
107	モリ部品	G	4,418	63
108	石田機工	H	4,095	79
109	東海製作	I	4,613	62

<乗率表>

単価	乗率
75 以上	3.6%
それ以外	3.2%

<処理条件>

- <出力形式>のような依頼先別加工賃一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
- 加工賃=単価×完成数
- 乗率は<乗率表>を参照し、求めなさい。(% の小数第 1 位までの表示とする)
諸経費=加工賃×乗率 (整数未満切り捨て)
支払額=加工賃+諸経費
- 支払額の昇順に順位をつけなさい。
- 合計・平均 (整数未満四捨五入の表示) ・最小を求めなさい。
- 完成数の降順に並べ替えなさい。
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)

<出力形式>

依 頼 先 別 加 工 賃 一 覧 表

コード	依頼先名	製品名	完成数	単価	加工賃	乗率	諸経費	支払額	順位

(途 中 省 略)

——	合 計	——		——		——			——
——	平 均	——		——		——			——
——	最 小	——		——		——			——

第 1 1 9 回 (令和元年 1 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準 2 級問題

<問 題>

- 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3 桁ごとにコンマをつけること。
- 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 試験時間は 3 0 分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

番号	会員名	車種 C O	時間
101	加藤 和江	11	12
102	瀬川 正樹	13	10
103	勝 みどり	14	9
104	小山田 哲	12	11
105	土屋 愛奈	12	13
106	内村 友美	13	21
107	植松 洋二	11	18
108	小早川 純	14	17

<基本料金テーブル>

車種 C O	基本料金
11	11, 000
12	10, 900
13	9, 800
14	12, 700

<超過料金の計算式>

時間	超過料金
12 以下	0
それ以外	基本料金×0. 2

<割引率表>

時間	割引率
18 以上	⇒ 6. 4%
12 以上 18 未満	⇒ 5. 3%
12 未満	⇒ 4. 2%

<処理条件>

- <出力形式 1 >のようなレンタカー料金一覧表を作成しなさい。(——— の部分は空白とする)
- 基本料金は<基本料金テーブル>を表検索しなさい。
- 超過料金は<超過料金の計算式>を参照し、求めなさい。
- 割引率は<割引率表>を参照し、求めなさい。(% の小数第 1 位までの表示とする)
割引額 = (基本料金 + 超過料金) × 割引率 (整数未満切り上げ)
請求額 = 基本料金 + 超過料金 - 割引額
ポイント = 請求額 × 1. 2% (整数未満切り捨て)
- 時間が 13 以上で請求額が 12, 000 以上に “A” の評価をしなさい。
- 合計を求めなさい。
- 割引額の昇順に並べ替えなさい。
- レンタカー料金一覧表の基本料金のセル証明をしなさい。
- <出力形式 2 >のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
- 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- レンタカー料金一覧表の請求額の値を会員名別の横棒グラフにしなさい。
タイトルは “請求額の比較” とし、凡例は “請求額” とする。

<出力形式 1 >

レンタカー料金一覧表

番号	会員名	車種 C O	基本料金	時間	超過料金	割引率	割引額	請求額	ポイント	評価

(途 中 省 略)

——	合 計	——	——			——				——
----	-----	----	----	--	--	----	--	--	--	----

<出力形式 2 >

	時間	請求額	ポイント
平 均			
最 大			
最 小			

第119回（令和元年12月）情報処理技能検定試験（表計算）2級問題

＜問題＞

- 1. 下記の＜入力データ＞を基に、＜処理条件＞に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 2. 使用したテーブルを印刷しなさい。（表の形式は問わない）
- 3. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

＜入力データ＞

CO	社員名	目標額(万)	契約額(万)	契約数	算定基準額
101	白川 由香	2,690	2,769	127	285,000
102	平田 直樹	3,140	3,158	164	319,000
103	大久保 恵	2,930	2,800	139	304,000
104	南 ほのか	3,270	3,315	172	332,000
105	野村 正明	2,580	2,673	108	278,000
106	石原 美和	2,950	3,174	153	295,000
107	大橋 勇気	3,410	3,319	194	351,000
108	関 真由美	3,320	3,297	186	346,000

※算定基準額のデータは＜出力形式2＞で使用する。

＜査定Aの計算式＞

契約額(万)	査定A
2,800以上	契約額(万)÷目標額(万)×100×1.2
それ以外	契約額(万)÷目標額(万)×100

※査定Aは整数未満切り捨て。

＜評価表＞

評価の条件	評価
勤勉手当と特別手当の両方とも21万以上の場合	A
勤勉手当と特別手当のいずれかが21万以上の場合	B
それ以外	C

＜処理条件＞

- 1. ＜出力形式1＞のような社員別査定表を作成しなさい。（――― の部分は空白とする）
- 2. 査定Aは＜査定Aの計算式＞を参照し、求めなさい。
- 3. 合計を求めなさい。
- 4. 査定B＝契約数÷契約数の合計×100（整数未満四捨五入・関数使用）
- 5. ＜出力形式2＞のような賞与一覧表を作成しなさい。（――― の部分は空白とする）
- 6. 査定A・査定Bは、社員別査定表を表検索しなさい。
- 7. 基本支給額＝算定基準額×1.57 勤勉手当＝180,000×査定A÷100
特別手当＝1,500,000×査定B÷100
総支給額＝基本支給額＋勤勉手当＋特別手当
- 8. 評価は＜評価表＞を参照し、求めなさい。
- 9. 合計を求めなさい。
- 10. 査定Aの多い順に並べ替えなさい。
- 11. 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）
- 12. 賞与一覧表の査定Aと評価のセル証明をしなさい。
- 13. 賞与一覧表の総支給額を社員名別の横棒グラフにしなさい。
タイトルは“社員別の総支給額”とし、凡例は“総支給額”とする。

＜出力形式1＞

社員別査定表

CO	社員名	目標額(万)	契約額(万)	査定A	契約数	査定B

(途中省略)

――	合計			――		――

＜出力形式2＞

賞与一覧表

CO	社員名	査定A	算定基準額	基本支給額	勤勉手当	査定B	特別手当	総支給額	評価

(途中省略)

――	合計	――				――			――

第 1 1 9 回 (令和元年 1 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 準 1 級問題

<問題>

- 1. 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
- 2. 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
- 3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
- 4. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

番号	貸室名	面積
11	和室A	52
12	和室B	78
21	洋室A	106
22	洋室B	132

※<出力形式1>で使用する。

CO	番号	時間
101	11	8
101	12	7
101	11	10
102	12	6
102	12	10
102	11	9
103	22	6
103	22	7
103	21	10
104	21	8
104	22	8
104	21	9

※<出力形式2>で
使用する。

<割引単価の計算式>

面積	割引単価
106以上	面積×3
それ以外	面積×2

<会員テーブル>

CO	会員名
101	歴史研究会
102	民謡クラブ
103	写真愛好会
104	駅前商店会

<諸経費の計算式>

時間	諸経費
6以下	(基本料金+超過料金)×2.9%
それ以外	(基本料金+超過料金)×2.6%

※諸経費は整数未満切り捨て。

<処理条件>

- 1. <出力形式1>のような貸室料金データ表を作成しなさい。
- 2. 基本料金=34×面積×6 (10位未満四捨五入) 超過単価=基本料金÷6×65% (整数未満切り捨て)
- 3. 割引単価は<割引単価の計算式>を参照し、求めなさい。
- 4. <出力形式2>のような請求額一覧表を作成しなさい。(——— の部分は空白とする)
- 5. 会員名、貸室名・基本料金はそれぞれ<会員テーブル>、貸室料金データ表を表検索しなさい。
- 6. 超過料金=超過単価×(時間-6) ※超過単価は貸室料金データ表を参照する。
- 7. 諸経費は<諸経費の計算式>を参照し、求めなさい。
- 8. 割引額=割引単価×時間 ※割引単価は貸室料金データ表を参照する。
請求額=基本料金+超過料金+諸経費-割引額
- 9. 時間が10以上または請求額が27,000以上に“#”の判定をしなさい。
- 10. 合計を求めなさい。
- 11. 請求額の少ない順に並べ替えなさい。
- 12. 請求額一覧表を基に<出力形式3>のような処理をしなさい。
- 13. 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
- 14. <出力形式3>の基本料金・超過料金を会員名別の積み上げ縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“会員別の比較”とし、凡例は“基本料金”、“超過料金”とする。

<出力形式1>

貸室料金データ表

番号	貸室名	面積	基本料金	超過単価	割引単価
(途中省略)					

<出力形式2>

請求額一覧表

CO	会員名	番号	貸室名	時間	基本料金	超過料金	諸経費	割引額	請求額	判定
(途中省略)										
—	合計	—	——							—

<出力形式3>

会員別集計表

会員名	基本料金	超過料金
歴史研究会		
民謡クラブ		
写真愛好会		
駅前商店会		

第 1 1 9 回 (令和元年 1 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 1 級問題

<問 題>

1. 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3 桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は 3 0 分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

得 C O	商 C O	数量
101	11	1,556
102	11	1,983
103	11	1,496
104	11	1,839
101	12	1,693
102	12	1,766
103	12	1,228
104	12	1,464
101	21	2,080
102	21	1,238
103	21	1,436
104	21	2,050
101	22	1,325
102	22	1,510
103	22	1,427
104	22	2,060

<得意先テーブル>

得 C O	得意先名
101	上野商事
102	ナカガワ
103	中尾総業
104	下川商店

<商品テーブル>

商 C O	商品	原価
11	A	960
12	B	840
21	C	880
22	D	920

<割引率表>

数量		商 C O	
		10 番台	20 番台
1以上	1,500未満	7.2%	8.1%
1,500以上	1,800未満	7.4%	8.3%
1,800以上		7.6%	8.5%

<判定表>

数量	請求額		判定
2,000 未満	かつ	200 万以上	***
2,000 未満	かつ	150 万以上 200 万未満	**
それ以外			*

<処理条件>

1. <出力形式 1>のような請求額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
2. 得意先名は<得意先テーブル>を表検索しなさい。
3. 商品名は<商品テーブル>の商品を表検索し、“商品”の文字を関数または演算子を使用して結合しなさい。
(例 A商品)
4. 定価＝原価×1.28 (10 位未満切り捨て) ※原価は<商品テーブル>を参照する。
売上額＝定価×数量
5. 割引率は<割引率表>を参照し、求めなさい。(% の小数第 1 位までの表示とする)
割引額＝売上額×割引率 (10 位未満四捨五入)
請求額＝売上額－割引額
6. 判定は<判定表>を参照し、求めなさい。
7. 合計を求めなさい。
8. <出力形式 1>と同じ形式で、商品名が D 商品以外で請求額が 200 万以上を抽出しなさい。
表題は“請求額一覧表 (D 商品以外・請求額 200 万円以上)”とし、数量の降順に並べ替えなさい。
9. 請求額一覧表を基に<出力形式 2>のような処理をしなさい。
10. 請求額一覧表を基に<出力形式 3>のような処理をしなさい。(平均は整数未満四捨五入の表示とする)
11. 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
12. <出力形式 2>の割引額を得意先名別の縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“得意先別の割引額”とし、凡例は“割引額”とする。

<出力形式 1>

請 求 額 一 覧 表										
得 C O	得意先名	商 C O	商品名	数量	定価	売上額	割引率	割引額	請求額	判定
(途 中 省 略)										
——	合 計	——	——		—		——			——

<出力形式 2>

得意先別集計表			
得意先名	数量	売上額	割引額
上野商事			
ナカガワ			
中尾総業			
下川商店			

<出力形式 3>

商品名が C 商品以外の請求額の平均	
数量が 1,300 以上 2,000 未満の割引額の合計	
定価が 1,200 円以下で売上額が 140 万円以上の件数	

第 1 1 9 回 (令和元年 1 2 月) 情報処理技能検定試験(表計算) 初段問題

<問題>

1. 下記の<入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
2. 使用したテーブルを印刷しなさい。(表の形式は問わない)
3. データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
4. 試験時間は30分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

<入力データ>

決済日	商C O	仕入数
11/10	11	167
11/10	12	252
11/10	21	328
11/10	22	205
11/10	31	124
11/17	11	130
11/17	12	281
11/17	21	142
11/17	22	125
11/17	31	289
11/24	11	209
11/24	12	156
11/24	21	134
11/24	22	270
11/24	31	193

※<出力形式1>で使用。

得C O	商C O	売上数
101Z	11	194
101Z	12	122
101Z	21	126
101Z	31	185
102X	11	149
102X	12	329
102X	22	113
102X	31	312
103Y	11	163
103Y	12	110
103Y	21	347
103Y	22	104
104Z	12	128
104Z	21	131
104Z	22	383
104Z	31	109

※<出力形式2>で使用。

<商品テーブル>

商C O	原価(\$)	定価
11	25.74	3,660
12	23.21	3,290
21	15.43	2,190
22	21.65	3,090
31	22.59	3,230

<為替相場テーブル>

決済日	為替相場
11/10	110.25
11/17	111.64
11/24	112.83

<割引率表>

型番	サイズ	区分		
		X	Y	Z
1	M	8.0%	7.1%	6.2%
2	L	8.3%	7.5%	6.7%

※型番は商C Oの1の位とする。

<分類表>

商C O	分類
10番台	商品A
20番台	商品B
30番台	商品C

<処理条件>

1. <出力形式1>のような仕入データ表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
※決済日の表示は<入力データ>のとおりとする。
2. 原価＝原価(\$)×為替相場(整数未満切り捨て)
※原価(\$)、為替相場はそれぞれ、<商品テーブル>、<為替相場テーブル>を参照する。
仕入額＝原価×仕入数
3. 合計を求めなさい。
4. <出力形式2>のような売上データ表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
5. 区分は、得C Oの右から1文字目とし、関数を使用し求めなさい。
6. 割引率は<割引率表>を参照し、求めなさい。(%の小数第1位までの表示とする)
売価＝定価×(1－割引率)(10位未満四捨五入) ※定価は<商品テーブル>を参照する。 売上額＝売価×売上数
7. 合計を求めなさい。
8. 仕入データ表、売上データ表を基に<出力形式3>のような商品別売上額一覧表を作成しなさい。(—— の部分は空白とする)
9. 商品名は、分類・サイズの順に関数または演算子を使用して結合しなさい。ただし、間に“－”を入れること。
(例 商品A－M) ※分類は<分類表>、サイズは<割引率表>を参照する。
10. 仕入額、売上数・売上額はそれぞれ仕入データ表、売上データ表を集計する。
11. 利益額＝売上額－仕入額
12. 売上数が売上数の平均以上で利益額が利益額の平均以上に“*”の判定をしなさい。
13. 合計を求めなさい。
14. 罫線の太線と細線を区別する。(外枠は太線とする)
15. <出力形式3>の商品名別の売上数を折れ線、利益額を縦棒にした複合グラフにしなさい。
タイトルは“商品別の比較”とし、凡例は“売上数”、“利益額”とする。

<出力形式1>

仕入データ表				
決済日	商C O	仕入数	原価	仕入額
(途中省略)				
合 計	——		——	

<出力形式2>

売上データ表						
得C O	区分	商C O	売上数	割引率	売価	売上額
(途中省略)						
合 計	——	——		——	——	

<出力形式3>

商品別売上額一覧表						
商C O	商品名	仕入額	売上数	売上額	利益額	判定
11						
12						
21						
22						
31						
——	合 計					——